

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者、職員は大きな家族の一員である。」を理念にあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	楽しいこと、苦しいこと、様々なことを共有し支援にとりくんでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会等で説明を行なっている。また、提示板にグループホームの案内を提示し、近隣の方に見て頂くようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	若年世帯が多く、挨拶程度で済んでいる事が多いが、古くから居住しておられる方は自家栽培した物を持って立ち寄ってくださったりとお世話になっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区に自治会等は存在していないが、民生委員の方の配慮もあり、序々に増えてきている。地域の行事への参加、またホームでの行事への参加も呼びかけている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症への対応、高齢者の介助の方法の相談に来られた方には施設長が応じている。	○	地域の高齢者、家族の方の相談、援助が出来る場面があれば参加したい。ホームに招待し、高齢者との交流の場になればと思う。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	契約書、重要事項説明書の見直しをはじめ、事故報告書、緊急時の対応、食事等についても改善に努めている。	○	緊急時の対応を新職に対して勉強会を増やして行きたい。また、利用者と共にする食事の回数も少ないと思うので、機会を増やして行きたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、評価結果等、会議の中で説明し、意見、助言をもらい活かしている。		
9 ○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター会議また、市あんしんすこやかセンターの連絡会に参加し意見、助言をしてもらっている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現状では活用していないが、成年後見制度等の研修は受けている。	○	多くの職員が学べるよう研修の機会を増やしたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の研修は受けている。利用者の入居時には心身の状況を観察しており、事業所内でも注意をはらっている。	○	多くの職員が学べるよう研修の機会を増やしたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書を説明するおり、分かりやすい言葉で説明するように心掛けている。また、契約者には納得、理解いただけたら契約を結んでいる。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各フロアに提案用紙、意見箱を設置しており、苦情が寄せられた場合は施設長、ケアマネ、主任に報告し対応するようにしている。全職員にも申し送りノートにて連絡している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回は必ず行っており又、状況に応じて報告している。 2,3ヶ月に1回は職員より近況報告の手紙と共にスナップ写真も同封している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時、県、市、ホームの苦情窓口は説明している。また、各フロアに提案用紙、意見箱を設置し苦情が寄せられた場合は、検討後対応する体制をとっている。職員は介護事業におけるリスクマネジメントセミナーの研修もしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、フロア会議等が出る意見は、施設長より運営者に報告して、可能な限り要望を聞いている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員採用のおり勤務可能時間を聞き、それに合わせ配置しており、フロアによっては職員を増員して対応している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>フoyer固定制にしており、異動の場合は少人数の異動にしている。ベテランの職員を各フoyerに配置し、必ず馴染みの職員がいるよう考えている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各フoyerに介護福祉士を配置し、新職の指導にあたっている。無資格者にはホームで働きながら資格を得るよう働きかけており、研修にも参加している。</p>		
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>西区グループホーム連絡会への参加、他ホームへの見学また、勉強会の場を設けている。</p>		
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員、個々の相談等随時行っている。また、職員同士の親睦会を開催し参加するようにしている。系列グループ合同での旅行もある。</p>		
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>質問が出来るよう状況を作るようにしている。自分の持っている知識を、他に広めるよう職員にも指導している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み後、本人に数回面談し、話を聞くようにしている。また、利用者にホームへの見学を進めホームの雰囲気を見ていただいている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	まず、ホームの見学を進めている、その場で大まかなお話を聞き利用に至るまでに数回の面談を繰り返し、お話し要望を聞いている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に至るまでに家等に訪問し、要望を伺い1番に困っておられる事を聞いている。病院等の事で要望あれば協力病院を紹介するようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には家庭で使用されていた物の持ち込みをお願いし、面会にも頻繁に来ていただく様お願いしており、状況に応じて家族にも協力願っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	季節の行事のやり方、調理の味付等、利用者に教えていただいている。楽しいことや、悲しいこと等、場面場面で利用者と共にしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	職員は家族に利用者の状況等よく伝えており、対応に困ったときなど家族に連絡し協力願っている。		
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への参加、面会等していただけるようお話し、家族の方との外出、外食また、ホームでの飲食も進めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人からの面会もあり、手紙、電話もあるが、回数は減ってきている。希望があれば支援しているが、希望も減ってきている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各ﾌｫｰﾑでの仲間意識が生まれており、助けたり、支えたりしている場面を良く見かける。利用者同士の人間関係を職員は把握しており対応している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院となり、退去された後も施設等の紹介を行っており、電話・面接等で相談も受けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自ら訴えてこられる利用者には、意向を伺い対応している。訴えのできない利用者には家族の方と相談しながら対応している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人、家族より生活歴、どんな生活環境のもと暮らしていたか細かく聞き、出来るだけ自宅で生活されていたリズムで支援している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝、夕の申し送りにて、1日の利用者の状況を職員が把握し支援している。	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の希望、要望を聞き、また定期的なケア会議にて意見等出し、現状をみながら作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回の見直しを行なうと共に、何か変化が生じた場合は、利用者、家族、職員等で検討し作成している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎回、個々の様子を加えて記録しており変化が生じた場合は、申し送りノートにて情報を得ており見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	系列には病院、老健、特養、有料、グループホーム訪問看護等があり 要望があれば応じている。契約時に系列の説明もしている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	所轄の警察、消防署の他近くのスーパー、喫茶店、ボランティアグループ、民生委員の方に利用者の状況を説明して協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在までに他のサービスの利用を希望する方が、おられなかった為実施した例は無い。	○	地域のケアマネとは連絡は取り合っている。今後、必要性が生じた場合は支援をしていきたいと思う。
42 ○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括主催の会議に参加しており、地域運営推進会議と認定調査の折も、アドバイスを受けている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>提携医療機関は夜間緊急時を含めて、いつでも相談できる体制をとっている。入居時には必ず希望を聞いており、他院に通院されている方もいる。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>提携病院の医師に相談し専門医への受診又、初診の際は家族にも同伴していただいている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用への支援をしている</p>	<p>訪問看護ステーションと連携しており、月2回の訪問看護の他、いつでも連絡をとれる体制にしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者の入院時には面会を頻繁に行っており、家族にも協力して頂いている。 主治医、生活相談員に利用者状況を都度聞くようにし、協議している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に重度化した場合の指針を説明し、事前確認をとっている。重度化した場合は主治医、訪問看護師、ソーシャルワーカー、家族、職員とで対応を協議している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>主治医、訪問看護師、ソーシャルワーカー、家族、職員とで話し合い、事業所での対応を考えている。特変についても対応できる体制になっている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	各関係者間で連絡を取り、メール等で情報交換を行い、必要であれば訪問している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者1人1人の個性を把握し利用者のペースに合わせ、傾聴を基本にその人に応じた対応を心掛けている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に押し付け的な対応はせず、傾聴を基本に利用者のペースを重視し支援している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者1人1人の個性を大まかに把握し、入居者のペースに合わせ支援している。	○	自己主張出来ない利用者の対応を考え個性を生かして支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の好みを尊重し支援している。また、外出時には適した服を一緒に選んでいる。理、美容に関しても自分の好みを個々に言っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日とはいかないが、一緒に調理、片付け等行なっている。食材の切り方、味付等、利用者に教わる機会が多くある。</p>	<p>○</p>	<p>特別なメニューまたは、外出時は共にしているが、利用者と食事する機会が少ない。職員もテーブルを共にする食事を多く増やしたい。</p>
<p>55 ○利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>日常的ではないが、嗜好品は出している。おやつ等はその方に合わせて出している。</p>		
<p>56 ○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>職員は1人1人の排泄パターンを把握しており、その人に合った時間に支援している。おむつやパットは状態に合わせて使用している。</p>		
<p>57 ○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>拒否時には強制はしておらず、日を変える等、利用者に合わせて行っており又、入浴時歌を唄って気を和ませるなどして支援している。</p>		
<p>58 ○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>職員は利用者の起床、入眠時間を把握している。日中は居室に閉じこもらないように配慮しながら支援している。</p>		
<p>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</p>			
<p>59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>草花の水遣り、野菜の植え付け、行事等の挨拶、家事手伝い等利用者に合った支援を行い、毎月季節行事も開催している。</p>		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者は所持しておられる。管理できない方は外出時、ホームより立替で渡し、自分で買い物等して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望のある方には希望にそって支援している。全員が出来るだけ外に出かけるよう地域の運動、ドライブ、買物、散歩等で支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に希望あれば支援している。ホームの行事としての花見、遠足等、家族に参加を呼びかけているが、参加者は少ない。利用者の中には家族とドライブを楽しむ方もおられる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人、親戚よりの電話の取次ぎ、利用者から家族への電話の希望があれば、その都度対応しており手紙のポストへの投函も行なっている。携帯電話をお持ちの方もおられる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族会、各種行事を計画した時は案内状を出し、協力を頂いている。来訪者の中にはボランティアを申し出てくださる方もおられる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限は極力しない支援を心掛けているが、利用者に危険があるときは家族の同意を得て行っており、時間、理由ともカテに記入している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行なわないように心掛けている。職員は利用者が見える位置にいるようにし、自室で過ごす時間が多い方には定期的に訪室し声をかけている。	○	全フロアが施錠しなくても利用者が安全に過ごせるよう、ドア等にベルを付け対応している。
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の所在を把握し声かけしながら支援しており、夜間は2時間ごとの巡回を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁等、台所の収納庫に保管されている。裁縫箱、はさみ等はフロアの棚に置いている。使用時は必ず職員が付き添っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者1人1人の状態を職員は把握し支援している。ヒヤリ・ハット等の活用を職員に指導している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	各フロアに対応マニュアルを設置している。各職員が質問を出し看護師による勉強会も開催しているが、定期的には行っていない。	○	日中は緊急時に備え、施設長、ケアマネ、主任のいずれかが常駐するようにしている。研修は行なっているが、定期的な開催も行なっていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	各フロアに防災マニュアルを設置しており、年2回の消防訓練も行なっている。職員にもその都度教えており、全体会議等での勉強会も実施している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	病院からの退院時には話し合っている。また、心身の状況に応じて、対応できるよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝パルクチェックを行なっている。日中、夜間、体調変化が生じた時は申し送りにて説明しており異変があれば訪問看護ステーションに連絡している。		
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の持病、アレルギー等について各職員が把握しており、利用者が飲み終えるまで確認している、服薬困難な方にはゼリー等もちいている。		
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	調理等で消化しやすいように工夫している。 利用者には運動または、水分補給を促し、便秘が続く方は主治医に相談し薬を処方してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、自力では困難な方は支援している。また、磨き残し等もチェックし支援している。 職員の中には「高齢者の歯科治療について」の講習会に参加している。月2回訪問歯科も行き指導を受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は加算計算されている。各利用者の摂取量を毎回チェックしており、水分についても飲用量をチェックし支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを各フロアに設置している。勉強会も行っており、各職員に対し、予防の徹底を図るよう話しており面会者にも協力して頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日配送されており、毎回使い切るようにしている。まな板、布巾等は毎日消毒して使用している。職員は食品衛生講習を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を飾り、玄関のベンチでは、利用者がよく談笑しておられる。また、玄関には利用者が書かれた絵を飾って来訪者に見ていただいている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑を多く取り入れるよう考えている。イベント時の写真、利用者が折り紙で作った時期の作品等飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはベンチ、フロアにはソファ、机、椅子等設置し、ベランダで花を育てたりと自由に過ごせる場所を作っている。フロアから菜園に行かれ野菜を収穫して来られる利用者もいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に自宅で使用されていた物を持ってきて頂いている。各自、自分で飾りつけをされ、自分自身の空間を作っている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>エアコンにより温度調節を利用者の状況に応じて行っている。また、日に何回かは換気を行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>エレベーターは自由に利用してもらっている。必要な場所には手すり、滑り止めマットを設置している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室には名札を設置しているが、慣れるまでは大きな張り紙をしている。各場所にも同じように張り紙をしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>駐車場空スペースで歩行練習されたり、ベランダで草花を育てたりと利用者自身で楽しんでおられる。</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の前に○印をつけてください)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、職員を白水家という大きな家族と思い、日々の生活の中で笑い声が絶えない何でも言える関係を築き、喜怒哀楽が分かち合えるような雰囲気の中で一緒に生活できるよう努力してる。